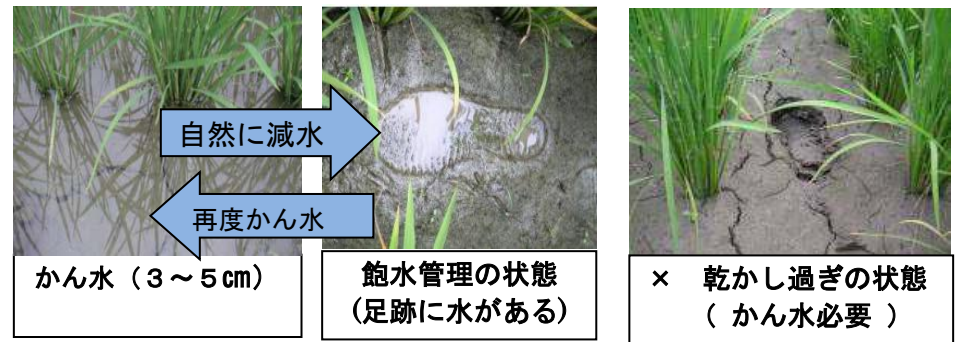


中干し後の適切な水管理、生育診断による的確な穂肥で収量・品質を確保！

1 中干し後の水管理～大ヒビ厳禁！ 間断かん水から飽水管理へ～

- (1) 中干しは、「田面に小さなヒビが入り、軽く足跡がつく程度まで」を基本とします。
- (2) 乾かしすぎて大きなヒビが入ると根を傷めたり、登熟期に稲体の老化が進みやすく、品質低下につながります。
- (3) 中干しは、出穂期の1か月前までには終了しましょう。終了時期が遅くなると、根域が縮小し高温年に品質が低下する場合があります。
- (4) 中干し後は、浅水の間断かん水を実施し、徐々に飽水管理へ移行しましょう。うわ根の発生促進や根の健全化、地耐力の維持につながります。

【飽水管理の方法】



【飽水管理】水尻は止水し、自然減水で田面の水が無くなり、溝や足跡の底に水がたまっている箇所が散見される状態になったらかん水する方法

2 出穂期予想と穂肥時期のめやす(6月18日現在)

○出穂期は、「**早生は平年より2～3日程度早い**」、「**中生は平年より2日程度早い**」予想です

品種	出穂予想日	1回目穂肥		2回目穂肥		合計窒素施用量 (kg/10a) ※
		時期	出穂前日数	時期	出穂前日数	
五百万石	7/17頃	6/27頃	20	7/5頃	12	1～2
わたぼうし	7/19頃	6/27～6/29頃	22～20	7/7～7/9頃	12～10	2～3
つきあかり	7/20頃	6/20～6/25頃	30～25	7/6頃	14	3～3.5
こしいぶき	7/22頃	6/29頃	23	7/8頃	14	2～3
こがねもち	7/27頃	7/9～7/12頃	18～15	7/17頃	10	1～3
コシヒカリ	7/30頃	7/12～7/15頃	18～15	7/20頃	10	1～3

- 早生5月5～10日頃、中生5月10～20日頃の移植を想定。
- 穂肥時期は化成肥料の使用を想定。
- 今後の気象等で出穂期は変動する。
- つきあかりで穂肥時期のめやす前に葉色が低下した場合は、早めに穂肥を施用する。

注) 出穂期はほ場間で差があり、今後の天候によっても前後します。

※合計窒素施用量を2回に分けて施用する

3 穂肥のポイント ～ 穂肥診断により適期に施用！ ～

穂肥時期の判断は、幼穂形成期（幼穂長0.1cmの時期）を確認し、遅れずに穂肥を施用しましょう。1回目穂肥は、穂数や粒数確保による収量向上、2回目穂肥は登熟向上に効果があります。施用にあたっては、倒伏や粒数過剰を防ぎ、後期栄養を確保するため、必ずほ場ごとに生育診断を行いましょう。

- (1) 各品種の穂肥施用量のめやす ～1回目穂肥は、適期に遅れずに施用する。2回目穂肥は、1回目穂肥の概ね10日後に施用する～

品種名	合計施用量 (Nkg/10a)	留意点
五百万石	1～2	穂肥は1回目に重点を置く。出穂期25日後まで飽水管理とし、早期落水はしない。
つきあかり	3～3.5	出穂期頃まで葉色 (SPAD値) 40以上を保つ。出穂期25日後まで飽水管理とし、早期落水はしない。
わたぼうし	2～3	1回目穂肥は出穂期22～23日前、2回目は出穂期12～10日前に施用する。出穂期25日後まで飽水管理とし、早期落水はしない。
こしいぶき	1～3	1回目穂肥は幼穂形成期に施用。低地力ほ場や後期栄養不足が懸念される場合は、1回当たりの窒素成分量を1.5kg/10aとする。
こがねもち	1～3	生育過剰の場合は遅めの1回目施用とし、1～1.5kg/10aにとどめる。

- (2) コシヒカリの穂肥施用量のめやす ～下記の調査結果を基に、穂肥時期及び量を判断する

【1回目の穂肥時期及び施用量：幼穂形成期(出穂24日前頃)の生育による診

葉色(単葉) 草丈	SPAD値 34～32 葉色板 4.2～3.9	SPAD値 35以上 葉色板 4.4以上
	70～75cm 以内	時期・量とも基準どおり施用 →出穂18日前:1.0kg/10a
75～80cm 以内	施用量を減らす →出穂18日前:0.5～0.8kg/10a	時期を遅らせ、施用量を減らす →出穂15日前:0.5～0.8kg/10a
80cm 以上	施用できない	施用できない

【2回目の穂肥時期及び施用量：出穂12日前頃の診断】

出穂14～12日前の 葉色(単葉)	出穂10日前の 穂肥量(10a当たり)
SPAD値 32～34 葉色板 4.2～4.5	基準どおり施用 1.0～1.5kg
SPAD値 35以上 葉色板 4.6以上	施用量を減らす 0.7～1.0kg 未満

※2回目穂肥は、後期栄養維持のため確実に施用する。
※全量基肥肥料であっても、葉色低下が見られる場合は施用する。

- (3) 基肥一発肥料の場合

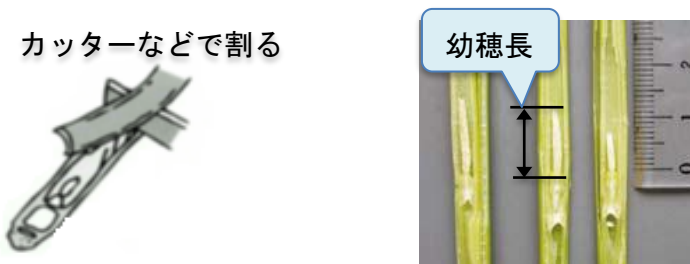
分施体系の穂肥散布時期に飽水管理を徹底し、土壌中の水分を保持しましょう。

- (4) 穂肥施用時期の確認方法

【幼穂長と出穂前日数のめやす】

①【幼穂長の測定による診断】

カッターなどで割る



幼穂長(cm)	出穂前日数
0.02	30日
0.1	24日
0.2	20日
0.5～1.0	18日
4.0～6.0	12日
10.0～12.0	10日

②【葉色(単葉)を測る】

